

法を用いた有児就業女性の出生率推計や婚姻の生命表分析に関する研究報告が行われ、活発に討論が行われた。
(石井 太記)

2012年度日本建築学会大会（東海）

2012年度日本建築学会大会（東海）は、9月12日（水）～14日（金）の3日間、名古屋大学東山キャンパス（名古屋市）において開催された。1万人近い登録参加者に加え、記念講演「漂うモダニズム」（榎文彦名誉会員）や記念シンポジウム「名古屋・愛知・東海の防災とまちづくり」など一般公開された企画には多くの市民の参加があった。建築計画や都市計画などの計画系の分野は、人口や世帯にとっていわば器である住宅やそれを取り巻く環境を対象とするもので、日頃とは違った視点からの研究成果に触れることのできる機会である。研究報告では、数年来の流れであるコンパクトシティ研究のほか、住宅のミスマッチなど、人口減少社会における居住の再編に着目したものも隆盛である。人口・世帯研究に関連するおもな報告を以下に挙げる。

- 「交通施設の整備状況に着目した地方都市の人口動態の地域的特徴」……………小川宏樹（和歌山大）他
「三重県四日市市における公共交通沿線の人口増減の実態と課題」……………浦山益郎（三重大）他
「都市縮小期（アーバンシュリンケージ）の人口構造 世界的文脈と我が国の特徴」
……………海道清信（名城大）
「ロジック型居住地選択モデルの新しい導出方法」……………本間健太郎（東京理科大）他
「メッシュデータを用いた東京近郊における人口減少の要因分析」……………小倉匠人（東京都市大）他
「将来人口推計比較による被災地における転出超過の分析 茨城県を対象として」
……………小林隆史（東京工業大）他
「住宅の機能を代替する施設立地と生活行動による人口分布の分析」……………鈴木達也（首都大）他
「住宅と居住世帯のミスマッチ問題における実態と地域性の分析」……………五十石俊祐（筑波大）他
「出生における住環境の役割 山形県と沖縄県の比較分析」……………井原弘策（神戸大）他
「世帯の家族類型変動における地域差の検討 全国調査の結果から」
……………小山泰代（国立社会保障・人口問題研究所）
(小山泰代記)

日本家族社会学会第22回大会

本大会は、2012年9月16～17日にお茶の水女子大学で開催され、参加者は300人と盛況であった。17日午後に行われたシンポジウム「育児と介護の家族戦略」では、育児戦略と見えない統制—育児メディアの変遷から（天童睦子）、介護の家族戦略—規範・選好・資源（上野千鶴子）、家族戦略？—個人戦略と公共政策の狭間（武川正吾）の3報告がなされた。会員企画による5つのテーマセッションでは合計20の報告がなされ、自由報告では、仕事と生活、多様な家族、介護と葬送、親と子ども、出産、結婚・夫婦、世代間関係・親族、家事・育児の8セッションで合計28の報告がなされた。テーマセッションと自由報告では、質的手法による研究の数が量的調査に基づくものを上回っていた。

社人研で実施している全国家庭動向調査や出生動向基本調査で扱う内容と特に関連のある報告は以下のとおりである。